

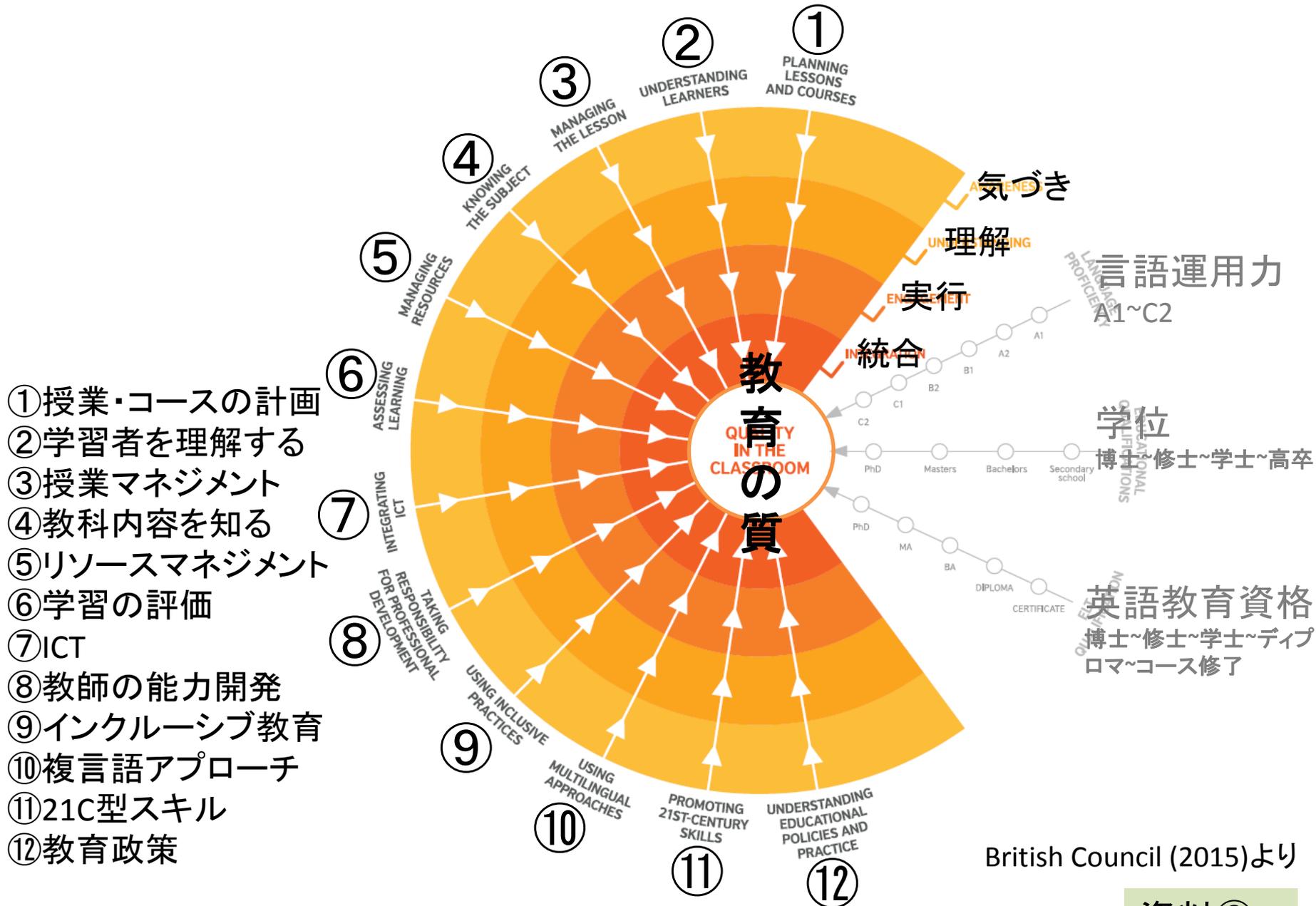
言語教師のための継続能力開発の枠組み British Council, Cambridge English, EPG, EAQUALS TD-FRAM, EPOSTL

名称 開発者	URL	対象	使用言語	主な目的	カテゴリの数(メイン、サブ)	資質能力の段階 /レベルの数	準拠研修、オンライン コース(公式展開)	その他 開発者・妥当性
1 <CPD> Continuing Professional Development Framework for teachers (2015) British Council	https://www.teachingenglish.org.uk/professional-development/teachers	国の初等・中等 教育で教える全 教科の現職教師	英語、中国語 - 他 言語への翻訳可	・教師の能力開発に関する政府との協働 を促進すること ・政府と教師が効果的で関連性の強い能 力開発ができるよう案内すること 教員の能力開発において各国政府と協働 するためのBrit-Cのアプローチ: 'Teaching for Success'	メインカテゴリ 12 ①授業・コースの計画、②学習 者、③授業のマネジメント、④科 目について、⑤教材リソース、⑥ 評価、⑦ICT、⑧能力開発、⑨イ ンクルーシブ、⑩複言語アプロ ーチ、⑪21Cスキル、⑫教育政策 >「要素」のリスト 101項目	4 能力開発(成長) の段階 1 気づく 2 わかる 3 実行する 4 統合する ※複能力主義	オンラインコース有料 オンラインコース無料	Brit-Cの英語および教育の専門家によっ て、外部諮問とBrit-Cのネットワーク(教 師、教師トレーナー、スタッフ)による妥当 性検証を経て開発された。
2 Cambridge English Teaching Framework (2015) Cambridge English Language Assessment	https://www.cambridgeenglish.org/teaching-english/professional-development/cambridge-english-teaching-framework/	様々な教育現場 における現職教 師、教師トレー ナー、コーディネ ーター/マネ ージャー	英語	・内省、自己評価、相対的評価を通じた教 師の能力開発をサポートすること ・能力開発プログラムのためのリソースと して、能力開発をサポートすること 以下本文より ・自分の教師としてのキャリアがどの段階 にあるのかがわかるようにする ・教師として次にどこを目指すべきかを考 え、そのための道筋(方法)がわかるよ うにする ・教授能力のパフォーマンス評価ツールと いうよりも、個々の教師のプロファイリング グリッドである。	メインカテゴリ 5 : 学習と学習者/教授・学習と評 価/言語能力/言語知識と気づき /能力開発とValues サブカテゴリ 36	4 教師能力4段階 Foundation Developing Proficient Expert 但し、これは各能 力の発達段階であ り、個人の教授能 力の総合評価では ない。 ※複能力主義	CELTA ICELT Delta TKT(テスト)など	ケンブリッジのコンサルタントチームが豊 富な教育評価関連データ(評価者の報 告、教師のポートフォリオ)を使って開 発。教師、トレーナー、マネージャーに対 するオンラインアンケートで妥当性検証。
3 <EPG> European Profiling Grid (2013) 協働プロジェクト supported by European Commission(EC)	https://egrid.epg-project.eu/	現職教師、教師 トレーナー、コー ディネーター/マ ネージャー	英語、仏語、独語、 スペイン語、イタリ ア語、トルコ語、ポー ランド語、ブルガリ ア語、オランダ語、グ ルジア語、ウクライ ナ語、中国語(現在1 2言語)	・内省、自己評価、相対的評価を通じた教 師の能力開発をサポートすること ・同じ機関で働く教師たちのプロファイリ ングを促進すること ・コースデザインのリソースを提供すること	メインカテゴリ 4 : 教師研修と資格/教授能力 の基礎/有効な能力enabling competences/プロフェッショナ リズム サブカテゴリ13	6 (main3 sub6) phase 1 1.1 1.2 phase 2 2.1 2.2 phase 3 3.1 3.2	なし	EPGはEAQUALS Profiling Gridとして始 まった。 EU資金プロジェクトとして多国籍チ ームが開発。教師1800名へのオンラインア ンケート、トレーナー100名とマネージャー 60名へのインタビュー調査により、妥当 性検証。 電子版の eGrid がある。
4 <TD-FRAM> The EAQUALS Framework for Language Teacher Training and Development (2013) EAQUALS	https://www.eaquals.org/ourexpertise/teacher-development/	教授歴の短い教 師、長い教師、マ ネージャー、コー ディネーター、教 師トレーナー、言 語教育関係者	英語	・言語教授能力の自己評価と内省 ・継続的職能開発 ・教師養成/研修のデザインの文書化 ・教師養成/研修の評価と認定	メインカテゴリ 5 : 教授学習の計画/教授と学 習支援/学習のアセスメント/ 言語コミュニケーションと文化/ プロフェッショナルとしての教師 サブカテゴリ25	3 phase 1 phase 2 phase 3	なし	EPGの関連文書だが、教授能力の記述 がより詳細になっている。トレーニングモ ジュールのマッピングにも利用されている 例 Oxford Teachers' Academy (OUP)
5 <EPOSTL> European Portfolio for Student Teachers of Language -A reflection tool for language teacher education- (2007) ECML of Council of Europe	https://www.ecml.at/Resources/ECMLPublications/tabid/277/ID/51/language/en-GB/Default.aspx	言語教育の教員 養成課程履修生 のためのポート フォリオ	英語 (多言語対応か?)	教師教育の内省ツール ・教授能力とそれを支える知識を省察する ・教職につく準備 ・仲間や指導者との意見交換 ・自分の力量の向上を自己評価 ・進歩の記録	メインカテゴリ 7 : 教育環境/教授法/リソース /授業計画/授業実践/自立 学習/学習のアセスメント サブカテゴリ 31(6メイン) 能力記述文Cando 195	NA	NA	背景にある文書は CEFR, ELP, European Profile for Language Teacher Education(Profile) 日本では英語教育のためにこれを翻案 した「JPOSTL」が作成されている。日本 の英語教育文脈に合わせた改変がみら れる。

この文書は、以下の文書を日本語に訳し、情報を加えて作成したものです。(作成者: 来嶋)

Continuing Professional Development (CPD) frameworks for English language teachers -a joint statement by the British Council, Cambridge English and EQUALS

https://www.teachingenglish.org.uk/sites/teacheng/files/joint_framework_statement.pdf



- ①授業・コースの計画
- ②学習者を理解する
- ③授業マネジメント
- ④教科内容を知る
- ⑤リソースマネジメント
- ⑥学習の評価
- ⑦ICT
- ⑧教師の能力開発
- ⑨インクルーシブ教育
- ⑩複言語アプローチ
- ⑪21C型スキル
- ⑫教育政策

自己評価チェックリストのように使える

British Council (2015)より

資料②



総合的能力記述文

DEVELOPMENT PHASE 1	DEVELOPMENT PHASE 2	DEVELOPMENT PHASE 3
<p>教授経験が浅く、職業的能力もまだ十分に養われていない「初期」段階</p>	<p>経験を積み、職業人としての自律性と能力を蓄積中の「中級」段階</p>	<p>豊かな経験、より高度な研修、幅広い領域における高い能力と同時に責任を持って仕事をしている段階</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・有能な模倣者(レプリケーター) ・ガイダンスとフィードバックが必要 ・教授スキルのさらなる養成を伴う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度自信がある ・授業計画、指導、評価を主体的に行う ・適切な教授ストラテジーを自分で判断し、実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲なスキルを習得している ・カリキュラム開発 ・教材作成と評価ツールの開発 ・ほかの教師に効果的なガイダンスを与えることができる
<p>・有能な模倣者(レプリケーター) プリサービス教授資格を有しており、良い実践モデルに従って教えることができる。授業の計画、実施、ふり返りが効果的にでき、ガイダンスやフィードバックに対しても反応を示す。</p>	<p>・自覚的実践者 (aware practitioners) 授業計画、指導、評価を主体的に行う。教授学習活動において起こる問題点に気づき、適切な教授ストラテジーを自分で判断して実行し、必要があればガイダンスを求めらる。</p>	<p>・熟達したファシリテーター (expert facilitators) 教授学習プロセスに関する広範囲なスキルとストラテジーを習得している。シラバスカリキュラム開発、ほかの教師が使う教材作成と評価ツールの開発もできる。またほかの教師に知識・情報や教授法に関するガイダンスを与えることができる。</p>
<p>・このレベルの教師は公的な養成プログラムで教授スキルをさらに訓練しているところ</p>	<p>・能力開発を実施する機関内において、このレベルの教師は継続的能力開発とはなにかをはっきりと理解しており、自身の職業的ニーズが見極められ、職業的成長のための目標を設定できる。</p>	<p>・このレベルの教師は高い能力を持ちながらもなお継続的能力開発のニーズについて理解しており、学習者として、またトレーナーや経験が浅い同僚のメンターとして、能力開発に関わっている。</p>

教師のプロファイリング 自己評価チェックリストのように使える

●Cambridge English 教授フレームワーク

<https://www.cambridgeenglish.org/Images/165722-teaching-framework-summary-.pdf>

日本語訳を改編

Cambridge English Teaching Framework

	下位項目 →詳細版	Foundation 基礎段階	Developing 開発段階	Proficient 熟練段階	Expert 専門家段階
1 学習と学習者 Learning and the Learner	<ul style="list-style-type: none"> 学習理論 FLAとSLA 言語教授法 学習者を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 言語学習の概念の基本について理解している。 理解している内容の一部を授業計画の作成や授業で発揮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語学習の多くの概念について一定の理解ができています。 理解している内容の一部を授業計画の作成や授業で発揮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語学習の多くの概念について十分に理解している。 理解している内容を授業の計画や授業で頻繁に発揮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語学習の概念について高度に理解している。 理解している内容を常に授業の計画や授業で発揮することができる。
2 教授法、学習、評価(アセスメント) Teaching, Learning and Assessment	<ul style="list-style-type: none"> 2.1 言語学習の計画 <ul style="list-style-type: none"> 授業計画 コース計画 2.2 教材とリソース <ul style="list-style-type: none"> 選択、改変適用、補完、使用 教具の使用 デジタルリソースの使用 2.3 言語学習のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 建設的な学習環境を作り、維持する 学習者に対する反応 教室活動を設定、実行 学習者の言語へのフィードバック 2.4 言語体系を教える <ul style="list-style-type: none"> 語彙 文法 発音 談話 2.5 言語スキルを教える <ul style="list-style-type: none"> リスニング スピーキング リーディング ライティング 2.6 言語学習の評価 <ul style="list-style-type: none"> 評価の原理 評価を学習に関する情報提供に使う 	<ul style="list-style-type: none"> 教授法、英語学習、評価の基本原則の一部を基本的に理解している。 基礎的な教授法を使って、学習者のニーズの認識は基本的なものながら、計画を作成して、単純な授業を行える。 市販のテストと簡単な評価手順を使って、学習を支援・促進できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教授法、英語学習、評価の基本原則の多くをある程度理解している。 いくつかの異なる教授法を使って、学習者のニーズをある程度認識しながら、計画を作成して、授業を行える。 簡単なテストを作成し、いくつかの評価手順を使って、学習を支援・促進できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教授法、英語学習、評価の基本原則を十分に理解している。 幅広い教授法を使って、学習者のニーズを十分に認識しながら、計画を作成し細部まで考えられた授業を行える。 効果的なテストを作成し、ある程度多様な評価手順を使って、学習を支援・促進できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教授法、英語学習、評価の基本原則を高度に理解している。 幅広い、包括的な教授法を使って、学習者のニーズを全て認識しながら、計画を作成し細部まで考えられた高度な授業を行える。 効果的な幅広い口頭・筆記試験を作成できる。評価手続を常に使って、学習を支援・促進できる。
3 言語能力 Language Ability	<ul style="list-style-type: none"> 教室で使う言語 言語モデル 学習者のエラーへの認識 教師間のコミュニケーション CEFRレベル 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な教授言語をあまり間違わずに使える。 CEFRのレベル A1とA2で教える言語項目の正確な例を提供できる。 <p>CEFRレベル A2 以上の言語能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授言語をほぼ正確に使える。 CEFRレベルA1, A2, B1で教える言語項目の正確な例を提供できる。 <p>CEFRレベル B1 以上の言語能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授言語を常に正しく使える。 CEFRレベル A1, A2, B1, B2で教える言語項目の正確な例を提供できる。 <p>CEFRレベルB2 以上の言語能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広範な教授言語を常に正しく使える。 CEFRレベルA1 - C2 で教える言語項目の正確な例を提供できる。 <p>CEFRレベルC1</p>
4 言語知識と言語アウェアネス Language Knowledge and Awareness	<ul style="list-style-type: none"> 言語に対する意識 言語を記述する用語 参考資料 	<ul style="list-style-type: none"> 言語を説明するいくつかの重要な用語を認識している。 参考資料を使って、学習者の簡単な質問に答えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語を記述する多くの用語について一定の知識がある。 参考資料を使って、ほとんどの学習者の質問に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語を記述する重要な用語について十分な知識がある。 参考資料をあまり使わなくても、ほとんどの学習者の質問に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語を記述する重要な用語について高度な知識がある。 参考資料をあまり使わなくても、ほとんどの学習者の質問に詳細に答えることができる。
5 専門能力開発と価値観 Professional Development and Values	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 教授学習活動の内省 自己開発計画 教師による研究 チームワークと協働 教師の役割と責任 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスがあれば授業を振り返ることができ、フィードバックから学ぶことができる。 自らのニーズを自己評価するためにガイダンスを必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスがなくても、授業を振り返ることができ、フィードバックに積極的に対応できる。 自らのニーズを自己評価することができ、いくつかの改善すべき点を特定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を批判的に振り返り、積極的にフィードバックを求めることができる。 自分が教師として優れている点と劣っている点を自分で特定できるとともに、他の教師をサポートすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に批判的に授業を振り返り、同僚の授業を見学して、専門能力の開発に熱心に取り組んでいる。 自分の優れている点、劣っている点をしっかりと自覚し、他の教師の能力開発も積極的にサポートしている。